



お見舞い申し上げます

天災日本列島を襲う



皆川優太ちゃんが4日振りに救出された瞬間

今年は大型台風が10本も列島に上陸(通年3本程度)し、各地で暴れまわり風水害に加え多くの死傷者や損害を出した、直後に10月23日夕新潟中越地震が発生死者30数名、怪我などで手当てを受けた人3千数百名、避難者が10万人余とあり新幹線も開業以来(40年間)初めて地震での脱線事故も起こった。今回の地震は強い余震が続き復旧が遅れて被災者は混迷と疲労で疲れ切った様子。23日から行方が分からなかった母子3人は、崖崩れで車ごと土砂に埋まっているのが3日目に発見され、飢えと寒さの中4日振りに2歳の男の子が救出されたのは奇跡とも云える。母と姉は死亡していた。

男児救出模様をテレビで見ていた人は手に汗を握り多くの涙をさそった事だろう。

「始まった義捐金募金運動」

日系社会は急遽新潟県人会と話し合い義捐金募金活動を支援する事となった。新潟中越地震義捐金委員会では広く日系団体及び個人からの募金への協力をよびかけている。9年前の阪神淡路大震災でも日系社会は募金活動を行っている。県人会では早速義捐金への協力を行った。



ズタズタに裂け関越自動車道



新幹線も脱線

「新潟中越地震義捐金募金へ協力」を!

10月23日新潟県で発生した中越地震は、大被害に加え余震が続き多くの人々が避難生活を強いられている。日系社会では幅広く一般から義捐金を募る事にしました。(関連記事あり)一人でも多くのご協力をお願い致します。

☆ 義捐金に関する問い合わせは「新潟中越地震義捐金委員会」 ☎ 3208-1755 (文協)

☆ 募金口座はBRADESCO Ag 0131-7 C/C 123.300-9
Sociedade Brasileira de Cultura Japonesa



被害家屋



避難所で暮らす被災者

臨時総会 「新」定款改正案承認

2002年1月発効し、期限が迫っていた新民法に基づいた定款改正の為の臨時総会が去る17日行われ、満場一致で承認されました。

既存の定款は48項目だったが、新定款は74項目と新民法に添って細部まで数カ月かけて理事会で討議していたもの。

千田会長と多田マウロ(副青年部長ボ語担当)から改正案の趣旨や変更点の説明があり、高橋信夫理事を議長に任命。議題に添い進行、討議され全会一致で承認された。尚出席出来なかった会員に新定款は後日送付される事が伝えられた。

総会后、日本より来訪されている新賛助会員岩船信一氏を交え交流懇親会が行われた。会員持ち寄り料理に刺身、蟹豆腐汁などが添えられ、岩船氏より日本酒の差し入れもあり楽しく過ごした。

尚、遠くはミナス州ベロオリゾンテから故小畑末蔵氏の娘トモコさんも久しぶりに参加された。

お知らせ

☆ 賛助会員第7号の藤村勝巳さん(盛岡)が11月26日来伯されます。帰国予定は12月中旬。

☆ 青年部海浜旅行は11月26日~28日に変更になりました。詳しくはEmilia・5071-1485

☆ 12月12日(日)忘年会・高齢者懇親会を行います。藤村勝巳氏の歓迎や「地酒南部美人」の賞味試飲会を予定。

日系候補 195名当選

市長31名、副市長31名、市議133名

10月3日全国統一地方選にて、日系候補が善戦し31市長、31副市長、133市会議員が当選した。中でも日系人が集中しているサンパウロ州では市長17名、副市長14名、市会議員に82名が当選。アチバイア市では71歳の副市長(8期目)、パラナ州ウライ市ではなんと86歳(帰化人)がブラジル最年長にて市長に復帰当選した。

10月31日には市長選第2次決戦投票が行われカパ加市長にリタ現市長を抑えセーラ候補が楽勝。

賛助会員紹介(9)

第39号 高橋 洋介(Yousuke Takahashi) 63歳 盛岡市在 花巻出身、2003年末に岩手県副知事を退職。氏は県農政部時代より県人会との関係が深く2001年副知事として知事名代でイグアス入植40周年式典に出席。南米各県人会も訪問。ブラジルでも会員との交流を深めた。会員(B)
(注) 県国際交流協会へ既に会費納入されておりますが、入会申込書は未だなので概略を記しました。

故 鈴木先生(元首相) お別れ会の報告

山田町民も善幸さんに別れ
町長ら740人が参列献花



町民お別れの会で参列者にお礼の言葉を述べる鈴木俊一さん

ご無沙汰しておりますうちに、当地はだいぶ涼しさを増してすっかり秋になってしまいました。御地は日毎に暑い季節になる事と思ひます。

先日も県人会ニュースを頂き有難う存じます。サンパウロ、そして県人会の方々をととても懐かしく思い出しております。会長様はじめ皆様お元氣でご活躍の様子とても嬉しく思ひます。今後益々のご発展を祈念致しております。

叔、かねてから故鈴木善幸先生のご家族への弔電をお預かりしておりましたが、ご家族の俊一様(衆議員)が9月10日山田入りをされましたので早速お届け致しました。ご遺族の皆様は「遠くブラジルからの弔電」とあって感謝しておりました。

11日山田町でのお別れ会後、菩提寺の竜昌寺の墓地に埋葬されました。墓地は小高い丘にありまして山田湾の海が一望できます。『海の人』善幸様には最も相応しいと思われまふ。岩手日報の切り抜き

お別れ会式次第を同封します。すっかり遅くなりましたが報告と致します。それでは会長様はじめ県人会皆様のご多幸をお祈りします。

9月23日 山田町 松本トミ(賛助会員12号)

県人会の動き(10月)

- 10月1日 北海道協会で行われた「戦後移住50年の記録」出版記念パーティに千田会長出席。
※ 多田マウロ君より会報121号のポ語原稿受信。
3日 全国地方選挙(市長、市議)が行われる。
4日 定例役員会案内状を発送。※ 定款日語70部、ポ語30部コピー依頼。※ 会報の割付作業及び文字校正を行う。※ 協賛会員として児玉勲さん(香川)入会。
5日 有住氏より広報「みかじり」138号受信。
※ 会報121号校了、コックイグラフィックに印刷依頼。
7日 アバイア大森氏の知人岩見四郎さんが、苫米地さんの「良い思いでは温めて」を日本へ送りたいご希望に一冊贈呈※ 苫米地さんへ古文書を返送。
9日 定例役員会開催 議題は臨時総会、家族慰安ピクニック、ビデオ取材についてなど。
10日 第21回東北・北海道親睦演芸祭が北海道協会にて開催され、岩手出場歌手も頑張った。
11日 会報121号を会員、コロナア団体、報道、海外県人会、県関係者、賛助会員などへ発送。
※ 県連執行部会に千田会長出席。
13日 三協技研工業三原正一会長急逝の報を受信し、弔電を愛知県豊橋市の本社へ発信。三協技研には県人会式典などで協力を頂いた。
15日 渡辺美智子さんより故人(栄喜さん)の蔵書350冊の寄贈があった。早速藤村副会長が書籍の整理仕分けその他の作業を始める。
17日 新民法に添った定款改正の為の臨時総会が開かれ満場一致で可決される。※ 総会后懇親会を行う。早朝の集中豪雨のためか出席者50名。
18日 訪岩する菊地さんの日程などを県国際課へ。
19日 山田弁護士(賛助会員)よりポ語定款の訂正箇所指示あり。※ 県連芸能委員会に会場提供千田会長出席。※ 県へコーヒー発送。
※ コックイ新聞に岩手県人会定款改正案承認の記事。
20日 県国際課より県民から寄贈のあった図書や県の機関誌など3箱180冊が届く。※ 県国際課工藤明雄氏より菊地さんの同課訪問についてのメールあり。※ 訪日する菊地さんに県庁へのお土産など依頼。※ リオデジャネイロの宮田村上クキコさん会費納入に来所。※ 大和商事より岩手の高級地酒「南部美人」入荷と。3本注文。
※ サンパウロ新聞に岩手県人会の日本の賛助会員ただいま38名と報道。
21日 県より定期刊行物受領。※ 南部美人配送有。
※ 婦人部餅搗きを行い希望者に分けた。
23日 マウロ君ピクニック用シュラスコその他を手配。
24日 家族慰安親睦ピクニック開催。(モジ郊外)
※ カーザポルトガルで行われた、青森県人会創立50周年記念式典に田中エレナ書記出席。
25日 NY県人会岩崎会長より久慈氏挨拶状掲載のお礼メールあり。「地酒・南部美人」入荷の返信

を岩崎氏へメール。※ 脇山経理事務所へ監査済会計書類を届ける。

27日 広報金ヶ崎10月号受領。※ 菅原圓雄氏よ会報受領の礼状あり。※ 県国際交流協会高橋量平事務次長より前家族会会長三上良三氏受賞勲章訳文の依頼。高橋信夫氏に翻訳をお願い。

※ 県連より新潟中越地震義捐金協力の依頼あり。
※ 早速お見舞い金、その他見舞いについて役員会に計る。

28日 県国際交流協会の高橋次長へ三上氏勲章訳文をFAX発信。※ 脇山計理士へ定款登録について相談。※ 勲章表彰状の訳文を交流協会へ発信。

29日 県連執行部会へ千田会長出席。議題は日本まつり他。※ 県連へ新潟中越地震見舞金を委託。※ 11月度役員会案内状作成、発送。

31日 和歌山県人会創立50周年記念式典に高橋信夫会計理事出席。

☆会費納入者名 (敬称略)

児玉 勲 (新協賛)、石川 百合子 ジュリア、
宮田 村上クキコ、 総計170名

☆ 寄付・寄贈

- ☆ 渡辺美智子様 図書350冊 山手樹一郎、池波正太郎集他など。
- ☆ 佐々木 憲輔様 茶菓子
- ☆ 一戸 和 様 (賛助会員21号) 文庫本多数 作家 池波章太郎 司馬遼太郎、海音寺正太郎 藤沢周平集など。
- ☆ 増田稲子様 (元副知事夫人) 川崎市宮前平 2-2-32 〒216-0006 ☎044-877-1272 健康に関する図書多数。増田様には以前環境に関する図書多数を頂いております。

◎ 図書のご利用を。一般にも開放致しておりますのでお友達にもお知らせ下さい。有名作家の図書が多数揃っております。健康読本は沢山部数がありますので必要でしたらお持ち帰り下さい。

ふるさとへ 帰った古文書

苫米地家には遠い祖先が書き残した古文書があった。それは建久2年(1335年)からの系図書、覚書、花押(かおう)とかいう殿様級が使う署名判などついた古文書など(故父吉郎氏が日本から持ってきていたもの)で苫米地さんにも読めない昔風の文字ばかりであった。この古文書を我が家に仕舞っていたのでは自分亡き後ゴミ同然になるのではと日本の知人(苫米地 宏氏、苫米地家の系図を作製した人)に相談し1994年同氏へ送った。

その頃、花巻市では市営博物館建設の企画や資料も集めていた事を知り同氏は市側に相談、同館準備室が喜んで受け入れ、苫米地家に伝わる古文書類が60余年振りに故郷の土を踏んだそうです。

程なく同準備室より丁寧な挨拶があり、また古文書などのコピー(写真)本が送られて来た。

そして今年4月博物館が開館。苫米地さんへの招待状と渡辺市長より資料の充実への協力に対し感謝状も贈られたが、お祝の言葉と欠席の詫び状を発送。

突然の荣誉に喜んでいただいていたが長年の悩みであった苫米地家に伝わる古文書が故郷の博物館に納まる事が出来、仏壇の亡父に報告したそうです。

この8月花巻市博物館から開館式典や館内写真記念帳、種々パンフレット、常設展示図録、盛岡南部20万石の美などの画報が送られて来た。また先の親友の訃報と今度の荣誉に、人生とは明暗織り交ぜた不思議な仕組みになっているもの。と結んであった。



建久2年(1335)足利尊氏下文・高師直達所(写)

苫米地家古文書資料目録

- 1, 足利尊氏下文・高師直達書(1335) 1点2通継
- 2, 南部政直黒印状 * 知行証文 * 百姓高書 元和6年(1620) 2通2枚折り
- 3, 苫米地家由緒書き上げ 1通 寛保元年(1741)
- 4, 検地証文(苫米地久次あて) 寛文7年(1667)
- 5, 伝馬証文(花巻御台奉行苫米地多左衛門使用の伝馬) 享和2年(1802) 1通
- 6, 花巻御台所本払勘定目録 1巻文化8年(1811)
- 7, 覚(門屋甚平所持武具目録) 1通 明治2年

懐かしいグアタパラ

花巻市 菅原 圓雄(賛助会員17号)

県人会コース121号を本日着信誠に有難うございました。トップニュースの小泉首相訪伯時、ヘリ視察の途中急遽着陸した事は伝えられていましたが、まさかあのグアタパラ移住地だったとはと驚いております。アペンダ グアタパラは、笠戸丸移民の古戦場で鈴木貞次郎、上塚周平、中でも「平野植民地」以前に活躍した移住地で、小生が農林省在職時に全拓連が5県の農家を対象に開設した、思いでの多い移住地で今でも当時のコロノ住宅やシネマ館の残骸が思い出されます。

ところで「南部美人」は数々の賞を獲得していますが、この美酒の杜氏、山一氏は私の生家近所の方です。

これから当地は美味しく真赤に色付いたリンゴの収穫期を迎えますが、消費地では生鮮野菜の入荷減で、品薄高価格で悲鳴をあげております。

色付き始めた山々も、台風などの影響でこれから吉とでるか凶とでるか微妙ですが、何と云っても東北のあの綺麗な錦絵のような風景を期待したいものです。御地はジャカラダの花を見ながら、益々お元気で活躍下さる事を心から祈念しております。

海上自衛隊乗員より

練習艦隊司令部首席幕僚 小林 磨

千田 曠暁 様

拝啓 この度の遠洋練習航海におきまして、サンパウロでの大変心温まる県人会に感激致し、お土産も沢山頂きまして誠に有り難うございました。

お蔭様をもちまして、当練習艦隊はサントス後、レシフェ、カルタヘナ、マンサニーニョ、ホノルルと寄港し、9月17日無事東京晴海埠頭に帰り着きました。どこの寄港地に参りましても日系人の方々の御活躍と地域社会から高く評価されているということ伺い、改めて日本民族の勤勉さ・誠実さというものを思い知る事が出来ました。

サントスに寄港の際には、ブラジル日本文化協会上原会長さんに「移住した日本人は道德、農業、教育をもって地位を確保した」とのお話を伺う機会があり、我々日本人が日本にいと忘れてしまっている事を思いおこさせて頂いたものと感謝しております。私にとってこの度の遠洋航海は収穫の大きいものだったと総括しております。

我々自衛隊の任務は、生産性のない商売のように思われますが、実は安全保障という、かけがえのない価値を生産しているんだという先輩がおりましたが、やはり皆様方の理解がなければやっていけません。皆様方の応援があればこそ、それを励みとして乗員一同心強く勤務に邁進出来ます。

今回の遠洋航海は何とか無事に終了する事が出来ました。これからも気を抜くことなく任務を遂行して参りたいと思います。県人会皆様のご多幸とご健勝を祈念しております。 敬具

ブラジル県人会様

練習艦「かとり」乗員 佐々木 昌文

「練習艦かしま」は予定通り9月17日東京晴海港着、母港呉へは21日に戻りました。艦は整備の為来年1月28日までドック入りです

さて、サントス寄港の際は盛大な歓迎会に招いて頂き有難うございました。とても楽しいアツと言う間の数時間でしたが、実は今でも歓迎会の余韻が残っていて毎日のように、家族にブラジルの習慣食べ物など私が感じた事を話しています。

それにしても歓迎会に出された料理はどれを食べても美味でした。シュラスコは柔らかくピンガも美味しく何杯も頂きました。まさか異国のブラジルで鮭や味噌汁など沢山の日本料理が食べられるとは夢にも思っておりませんでした。

二次会で皆さんが最後まで付き合ってくれた事にとても感激しました。もっといろいろな人と楽しい話、苦労した話を聞きたかったのですが何せ、限られた時間しかなく後髪引かれる思いでサンパウロを後にしました。末文になりましたがブラジル県人皆様のご健康と幸せを心よりお祈り申し上げます。

「おことわり」 数々のお手紙有難うございます。紙面の都合で残念ですが全文を掲載出来ません。一部抜粋又は省略させて頂きました。悪しからずご了承下さるようお願い致します。

見学とピクニック

県人会では10月24日(日) 会員親睦を兼ねたピクニックをモジ市郊外のシチオ佐川で行いました。

午前8時過ぎ日本からの岩船夫妻や金谷ハナエさんなど約40名を乗せたバスと車組は、始めにナガオ街道添いにあるCasarão do chá (廃屋になった製茶工場) を見学しました。コウエー 在の菊地達郎氏も待っておられた。連絡を入れていた保存運動を行っている陶芸家の中谷氏から説明を受ける。



カザロン デ シャの説明を受ける

家屋は当時お茶需要大により工場の拡張と言う事で、1942年ペレイラ バレットに居た大工花岡カズオ氏に建築を依頼。氏は日本式工法(釘を使わない組込みや楔を打つ工法)で自然の大木や枝或いは根コで組立した二階家である。家屋は長年の風雨により傷みが酷く二階へは立入り禁止となっている。家屋上には大屋根があり直接の雨を遮っているのがせめての慰めである。中に入ると屋根瓦が壊れ壁など剥げた所もあり、製茶工場跡をとどめる初歩的な機械が数台展示?されていた。建物の特徴は丸太まるだしで細工された玄関?入り口で寺社を思わせる形の違う二重屋根がめずらしかった。近くの工房で中谷氏による陶芸教室を見学しシチオ佐川へと向かう。

シチオではドットールの家族が待っておられた。若い人は早速シュラスコの用意を行う。昼食後は懇談や園内を散策、珍しい植物を見たり、雨後ニョキニョキと出ていた竹の子狩りなどなど...

佐川家はお医者さん一家であるが、お父さん時代は野菜や果物を育て天秤棒に下げ街まで売りさばきに1日ばかりで行っていたと言う。父母は子供達が成長していくと森を元にと植林を行って今立派な松林が土地(357アルセル)を覆っている。

お天気はたまに霧雨が降った程度で暑くもなく良いピクニック日和で、お世話になった佐川家皆様のお見送りを午後4時すぎ帰路についた。



ドットール佐川家族と記念写真